



ベタニアの家
 第 76 卷 第 2 号
 年 4 回 発 行
 編 集 発 行
 社会福祉法人 慈生会
 〒165-0022
 東京都中野区江古田 3-15-2
 TEL 03-3387-5567
 振替口座 00160-3-402198
<http://www.jiseikai.jp>

少しでもお役に立てれば……と

櫻井 正昭

私が昨年の五月末に社会福祉法人
 慈生会の常務理事を拝命してから
 一〇ヶ月が経過しました。

その間、昨年八月には、中野地区
 に中野トータルサポートセンターが
 発足し、一月には、清瀬地区で乳
 児院「ナザレットの家」と児童養護
 施設「ベトレム学園」の合築工事
 がスタートしました。私としては、
 ようやく業務になじんできたという
 感じですが。

私はいわゆる幼児洗礼のカトリッ
 ク信者ですが、慈生会本部の近隣に
 位置する徳田教会に所属するようにな
 ったのは、大学に合格できた一九
 六一（昭和三六）年の春ですので、五
 六年前ということになります。その
 後学生時代を経て社会人になり、転
 勤などで他の教会に移りましたが、
 一九九五（平成七）年に再び戻って来
 ました。

私と慈生会との関わりは、その三
 年後に非常勤の監事を頼まれて以来
 です。その八年後に非常勤の理事兼評
 議員に代わり、慈生会病院の譲渡問
 題などのお手伝いをして来ました。

以前は、お隣りの教会の信者であ
 りながら、全くと言っていいほど慈
 生会の事業には無関心でしたが、関
 わりを持つようになって初めて、徳
 田教会を建てた方と、慈生会事業を
 始めた方が同じフロッジャク神父で、
 お互いに切っても切れない関係にあ
 ること、そしてこの社会福祉法人が、
 乳児院、保育所、児童養護施設、障
 害者支援施設、特別養護老人ホーム
 など、幼児から高齢者まで、全ての
 世代の社会的に重荷を負っている方々
 を対象にしている、さらには病院ま
 でを含む広範かつ複合的な事業体で
 あることを知りました。

私は非常勤の理事として一〇年、
 外部から招請した歴代の常務理事と
 お付き合いをして来て、皆さんがそ

れぞれ、カトリック施設としての理
 念と、一般の社会通念との間で、苦
 労されている場面を見て来ました。
 昨年五月に前任の畠山さんが、二年
 の任期を終えて退かれた際に、信者
 の一員でもある私としては、これま
 での知見を活かし、少しでもお役に
 立てれば……と思い、次期の常務理事
 をお引き受けする決心をしました。

ないかと指摘されるようになりまし
 た。また高齢者施設のように、民間
 企業でも取り組めるものは、民間に
 任せる方がサービスも向上するので
 はないかと言われるようにもなりま
 した。社会福祉法人に対する風当た
 りは、ますます強まっています。

ちょうど社会福祉法の改正が行わ
 れ、この新年度から、大きな組織の
 改編に取り組まなければならなくな
 りました。

慈生会は、まだ我が国に社会福祉
 法人という形が存在する以前から、
 フランスからの宣教師フロッジャク神
 父が、イエス・キリストの精神に根
 ざして、貧しい方々、社会に見捨て
 られた方々に手を差し伸べるために
 創設されたものです。私も及ばずな
 がら、神父の思いを基本にしなが
 ら職務に励みたいと思います。

これまでは評議員の相当数が理事
 と重複していましたが、今後は評議
 員会と理事会を分離し、評議員会の
 権限が拡大することになりました。

最後に「瑠璃草」について触れて
 おきます。この機関紙は、フロッジャ
 ク神父が、当時困窮の極みにあった
 結核患者のために始められた「ベタ
 ニアの家」事業の広報を目的として、
 一九三九（昭和一四）年に創刊され
 たものです。「ベタニアの家」は、慈
 生会、ベタニア修道女会、東星学園
 の三つの活動の共通の原点です。今
 年で創刊七八年になります。この
 四月号から慈生会が一元的に編集発
 行の責任を担うことになりました。今
 後とも読みやすい紙面作りを目指し
 ますので、読後感などをお寄せいた
 だければ幸いです。

さらに財務諸表の情報公開を通じ
 て、会計内容を対外的に明らかにす
 るとともに、内部留保がある場合に
 は、その理由と将来計画、地域福祉
 への貢献のための計画を公表しなけ
 ればならないことになりました。

これまで社会福祉法人は社会から
 好意的に見られ、税金の面でも優遇
 されて来ましたが、最近はもっと施
 設外の地域福祉にも尽力すべきでは

（慈生会常務理事）

♪ ドドソソラソ... ♪

田浦 保子

今から二年前のH二七年春、保護者会会長の渡辺裕子さんを通して、チャリティーコンサートでお世話になってる渡辺光男先生から、オカリナを作った演奏をしてみないかとのお話を頂きました。オカリナの演奏と聞いて即、「利用者さんには難しい」と心によぎりましたが、このお話を羊の丘工房の利用者さんにしてみると、何の迷いもなく「やる」が全員一致の回答でした。

「本当に分かってるのかな？」「やる事」とは自分でオカリナを作り、演奏することなんです。

早速、先生の奥様やボランティアさんも加わってオカリナ作りが始まりました。でも、本当にオカリナなんて自分たちで作れるのでしょうか？まだそんな思いを引きずりながらオカリナ作りは始まりましたが、そんな心配は職員だけのようでした。利用者の方々は、何の迷いもなく、熱心に一心不乱に制作に打ち込み、いつしか私たち職員もそんな迷いや心配はどこかに消えていってしまいました。

オカリナ作りの工程は二つの石膏の型に粘土を入れ、それを合わせる。オカリナの形が出来上がります。口元をつくり音階となる大きな違う穴を慎重にあげます。ここが楽器になるかならないかの分かれ目です。成形が終わったオカリナは最後に一人ずつ自分の名前を彫ってオカリナの完成です。

次に電気窯での焼成が待っています。高温で焼かれて割れてしまわないように、皆のこれまでの努力がどうか報われますように！と心配と期待が交差します。無事焼きあがったオカリナに先生が音の調節をして、ようやくオカリナの完成です。感激！... ついに出来上がりました。楽しく、真剣に作った世界に一つだけの、マイオカリナです。みんなとても大切にしています。落とさないよう両手で持ち歩く姿は、まさに『大切な宝物』のようです。



メンバーは利用者さん九名と職員三名、そしてボランティアさん三名も加わった総勢十五名。グループの名前は「羊の丘風クラブ」と決まりました。なんだか上手そうな名前がつかまりました。

先生の吹く澄んだ透明感のあるきれいな音色、いざ自分たちが吹いてみるとなかなか音が出ません。一息吹くたびに指の位置を確認したり、

恐る恐る息を吹き込んだり、演奏になるとそう簡単にはいかず、初めは左手でおさえる穴をセロテープでふさぎ、右手の五指だけに神経を集中して「ちようちよう」の練習が始まりました。

練習を始めて一カ月もしない時、やっと「ちようちよう」が曲らしくなったかなという実力にもかかわらず六月のガーデンパーティーに、身の程知らず・無謀にも「ちようちよう」を披露してしまいました。当然アンコールなどありません。でも、人前で演奏したことは、メンバーにはちょっとした（いや、大いに）自信になったようです。その後の練習にも力が入りどんどん曲数が増えていきました。今では一〇曲ほどのレパートリーです！

練習の時、渡辺先生は、メンバーにちょっとした緊張を私たちにあたえてくれます。先生其れを楽しんでるのかな？とも思うのですが、『チャレンジタイム』という独奏の時間です。演奏の腕前は人それぞれ。一人で堂々と吹く利用者さん。一人では自信ないと職員を誘う利用者さん、いろいろです。でも「いやだ」という人は誰もいません。

ボランテアさんも一人では恥ずかしいという利用者さんと一緒に演奏するとう、何ともいえない心温まる光景です。九人の利用者さんの中には音符が読めて吹ける人（すごい！）、職員の手動きを見て、それも向き合った職員の指を見て自分の指に置き換えて吹く人（すごい！）、同じ音だけを出して和音として吹く人（すごい！）と様々ですが、誰もが真剣にオカリナに向き合っています。

昨年の十二月の那須町チャリティーコンサートでは、文化センターの大ホールで「那須高原風クラブ」とジョイントする機会を得ました。思いがけなく演奏は素晴らしいハーモニーを生み出し感動を味わうひと時でした。

羊の丘工房の利用者さんは日頃から自分たちの仕事でもあるお菓子作りを通して、「できない」「わからない」事にチャレンジし達成した喜びを知っています。自分が挑戦することとで自信を付け、一人ひとりの成長に結びついています。

「オカリナから得たもの」それは私たちの力はとても大きいと言う事です。お菓子作りやオカリナ、様々な活動を通して羊の丘工房のメンバーの絆はより強くなりました。何にでも挑戦していく利用者さんの限りない力に驚き、一緒にできる喜びを今、感じています。私たちの挑戦はまだまだ続きます。新しいお菓子を作り、手話や手芸（クラフトのかご等）にも挑戦していきます。NEVER ENDING.

最後にオカリナを見るのも触るのも初めてだった私たちに、根気強く丁寧を教えて下さった渡辺光男先生に感謝します。そして一緒に演奏して下さった那須高原風クラブやボランテアさんの皆さん、いつも私たちを支えてくれてありがとう！これからも楽しく何ごとにもチャレンジしていく私たちでありたいと思います。

これからもよろしくお願いします。多くの皆様に感謝を込めて。
(マ・メゾン光星)

事業所の移転

グループ長 坂本 真理

心地よい柔かな風に春の訪れを感じる今日この頃ですが、皆様いかがお過ごしですか？新年度が始まり、気持ち引き締まる思いもします。新たな変化としまして、今年に入り、「事業所移転」がありましたので、改めてご報告させて頂きます。

本年一月十五日に慈生会中野ケアプランセンターとベタニアヘルパーステーションはベタニアホーム内に移転となり、心機一転フレッシュな気持ちで、毎日業務にあたっております。

旧事務所では寒さや浸水など天候に影響を受け易いワイルド?!な環境下の業務でしたので、現在の状況はまるで楽園のように感じます。感謝感謝です。引越し準備期間が短く業務と並行しての作業はなかなか大変でしたが、慈生会病院時代から通算すると数回の引越しを経験している我が事務さんと本部の協力のおかげで、スムーズに移動できました。

さて移転後、ベタニアホーム内では、施設長、事務さん、相談員さん、ベタニアホーム、デイホームの職員さん達と距離的に近くなった事で、より親近感が増しております。それにより、連携の力を更に強めていけるポジティブな可能性を感じています。

昨年八月に中野トータルサポートセンターが発足し、中野地区の各事業所の横の繋がりを強める事で更に

良質のサービスを利用者の皆様にご提供していく体制づくりが始まりました。

介護保険サービス利用の入り口となる地域包括支援センターを初め、居宅介護支援を行うケアプランセンター、実際のサービスを提供する訪問看護、訪問介護、通所介護、ショートステイ、そして入所施設と、こう記すだけでも我々は、こんなにも揃った体制で利用者様にサービスを提供できる事がわかり



がわかります。昨今、在宅で介護されているご家族の生活スタイルがほんの数年前に比べて変化している事を感じます。仕事を

持ちのご家族が増えておりますので、サービスの利用は必須です。そこで我々の強みを生かしたサービスを提供することが、地域の皆様にとって安心して歳を重ねられる事に繋がると思っています。この度の事業所移転がその一歩となるよう改めて気を引き締めていきたいです。

最後に、物理的に少し離れてしまった訪問看護とも、また同じ建物内でお仕事できますようお願いを込めて・・・。(中野トータルサポートセンター)

医療療養病床への転換

事務部長 菊池 誠

平成三十年三月末日とされた「介護療養病床」の廃止への対応として、当院は全ての介護療養病床を「医療療養病床」へ転換する道を選びました。これから二十年以上にわたって続く高齢化社会で、当院はどの領域を担っていくのか？「医療」なのか？「介護」なのか？非常に悩ましい選択でした。この視点と同じく重要なのは、社会福祉法人慈生会の一施設としての「役割」という視点です。

私たちの法人は、養護老人ホームと特別養護老人ホームを有し、老人介護の領域では手厚い体制を既に敷いております。この現状を踏まえ、ベトレヘムの園病院は「介護」ではなく、「医療」を提供する「療養病院」として存続することが社会においても、法人内でのバランスにおいても最適な選択であると考えました。

九十二床という限られた病床という資源をすべて「医療」の領域に割くことは、人員の確保や医療レベルの維持において、これからも並々ならぬ努力を必要とされます。

私たちはこの決断を、せざるを得なかった「受け身」としての選択で

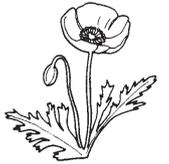


はなく、療養病院としてより高い次元の医療サービスを提供していく「攻め」の選択と考えています。

既に、DPC（診断群分類）への対応を見据えたデータ提出加算の基準取得や、長期療養の患者受入れに留まらず、在宅や福祉施設からの患者を「治して」退院して頂く、在宅復帰機能の強化加算も全医療病床で取得しました。国の動静に追われるのではなく、これから求められることを追っていく「医療」を全職員が一つになって実現していけるよう、日々努力していきます。青木院長が常々私たちに語られる、「ベトレヘムの園病院に入院したいと希望される患者さんが絶えない病院にすること」、それが私たちの使命、療養病院としての存在意義であると考えます。

(ベトレヘムの園病院)

ベタニアの家



四月行事予定

- 1日 慈しみの家 開設記念日
- 3日 慈生会新任職員

オリエンテーション

- 8日 東星学園中高 入学式
- 11日 東星学園小学校 入学式
- 12日 東星幼稚園 入園式

- 16日 ☆復活の主日
- 23日 ☆神のいつくしみの主日
- 29日 《昭和の日》
- 29日 東星学園 ヨセフ祭

(舞台発表)

五月行事予定

- 1日 ☆労働者聖ヨセフ
- 1日 東星学園 創立記念日ミサ
- 3日 《憲法記念日》
- 4日 《みどりの日》
- 5日 《こどもの日》
- 20日 東星学園小学校運動会
- 24日 慈生会理事会
- 28日 ☆主の昇天
- 31日 ☆聖母の訪問

六月行事予定

- 4日 ☆聖霊降臨の主日
 - 4日 ☆5日 慈生会職員研修
- 『キリストの心に
触れるパートI』

- 8日 慈生会評議員会、理事会
- 10日 徳田保育園 開設記念日
- 18日 ☆キリストの聖体
- 23日 ☆イエスの心

ベタニア修道女会

設立認可八十周年記念ミサ

- 27日 ベタニアの家 創立記念日

創立記念ミサ・永年勤続表彰

計 報

シスターカンディダ 緒方 千年



生 歴

一九二〇年 十二月 三日 生

一九六八年 十月 十七日 立誓願

二〇一七年 三月 八日 帰 天

シスターイネス 吉田 利子



生 歴

一九二五年 十月 三日 生

一九六八年 十月 十七日 立誓願

二〇一七年 三月 二三日 帰 天

ベタニア修道女会

旧「瑠璃草」より
病人よ祈禱の使徒たれ

不老若 (創立者)

聖霊降臨は新約の教会の誕生日であります。シナイ山に於いて与へられたる十誡を守らせる為に、聖霊は奇蹟を以って使徒達に光と火をくださいました。そして使徒達は賜物を頂いた其の日から布教のために働いたのであります。

聖霊降臨の時から使徒たちは愛を悟り愛に満たされて愛の道を人に聞かせました。真理を認め、之を愛しまた之を人に愛させんが為に一生涯血を流すまで苦しみました。彼らは私共の指導者であり、その後継者こそ、教皇、司教であります。光を求めよ。真理の道をよく悟り、良き理解を以って愛せよ。ある学者は「愛まで至らぬ学問は禍なるかな」と申しました。天主を愛することは自然の義務であります。愛を所有せよ。

この使命を果たす為には金銭も旅行も要りません。必要なことはただ天主と人との愛、又愛のために起こる謙遜と忍耐とであります。特に布教日には、家族のため、殊に天主の愛を知らぬ一般の人のため、全世界の病人と心を合わせて教皇様の仰せに従って親善大使の勤めを完全に果たす事を御願ひします。

(昭和十四年八月)

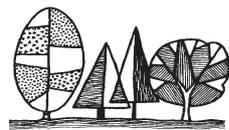
以前、慈生会の大恩人大越師がミサの説教中にしばしば俳句を取り上げられていたことを書きました。今となると思いだされるのは一句のみですが、度々登場していた句だったような気がします。

「山路来て何やらゆかしすみれ草」
今の時期にはピッタリです。

(越 英明)

徳田保育園では三月十八日に卒園式がありました。昨年度の年長児は特にユニークなことも多いような気がしました。毎週、聖書絵本を読んでもありますが、やっと今年の二月ごろから落着いて聞いてくれるようになりました。少し難しい旧約聖書から新約聖書までの全巻(二十六巻)のお話、最後は集中して聞いていて感心しました。

編集後記



でも達が、小学校で心も身体もひと回りもふた回りも大きくなって、また卒園児として保育園に来る時、成長した姿で「こんにちは」と声をかけてくれることを今から楽しみにしています。

(Sr竹原 比佐子)

今年のイースターは四月十六日のため四月に入ってやっとな聖週間という雰囲気の中ですが、新年度がスタートしました。年度末の忙しさを経て春の「ソワソワ感」「ウキウキ感」を味わっています。希望を実現に向けてと意欲を駆り立てる節目の季節でもあるのです。準備の時を過ごしてきて、キリストの復活を迎えます。

主に癒され、主に愛され復活の新しい命に生かされますように。慈生会や東星の取り組みの一つ一つに祝福があり、皆さまお一人一人に必要な祝福と恵みをと祈ります。

(Sr菊池 啓子)